

大子 こんにやく製造 松浦幹夫さん

工場の設備が浸水

私の住まいは何ともなかったんですよ。うちの工場、一メートルプラスぐらいの水が入っちゃいましたね。影響をずっと引っ張っています。

機械類は特にモーター、電動モーターを大体地べたに据え付けますよね。ちやぽんと入ったやつは全部駄目です。何が駄目かって防塵タイプのベアリングの中にまで砂が入るんですね。だから一回全部ばらして、何個あったんだろかな、八十個ぐらいあるんですよ。全部取り替えられませんかから直してくれて頼んだよ。みんなバラして掃除して、ベアリングだけは新品に変えてということをやりましたね。それから工場の機械を、最近パソコンで動くでしょう。あれが全て駄目ですね。これは激甚災害指定があり、補助金が出たんで何とか助かったんですけど、あれがなければ、もうその瞬間に廃業ですね。何十年もかけて少しずつ少しずつ作ってきた小さな企業ですから。だから莫大なお金を持っていれば直せるんだけど、直せないですね。

二ヶ月、特に最初の一ヶ月はもう朝から晩まで家を出たら工場で泥掃き。それで疲れて夜帰ってくるの繰り返しですね。だから、役場の周辺がみんなに水が入ったなんていうのはわからなかつ

たです。後で広報だいごの写真を見て、FMだいの放送局が水に浸かっているの知って、あれこんなに来たんだ。初めて他の町内がひどい状況だっというのが初めてわかりましたね。

ボランティアはね、少し手伝ってもらったんですけども、やつぱり大きい重機でばあつとやるよなものではできなかったからね。それはみんな海戦術。親戚縁者がみんな助けに来てくれたんです。ただ隅々までまんべんなく泥つて入ってくるでしょ。あれは本当に大変な作業ですね。だからそれ以後、あちらこちらで洪水があつて今までだったら、洪水でちよつと浸かったんだねぐらいの気分でしたのが、もうえらいことだろうなと推測しますよ。最近特に多いじゃないですか。

(洪水対策は)町なり国なり議員や政府関係の人らが本当に親身になってやつてもらわないと。それで補助金が出るってやつでも最初に出ないよね。全部立替払いをしてから出る。それからこういうものは駄目、ああいうものは駄目といういろんないろんな制約がある。

最初にあれつと思つたのは、軽トラトラックが二台水没しました。自動車といえば、軽トラが二台、リフトが二台、それから業務用のライトバンが一台ね。それでああいうやつは全部駄目になるんですね。軽トラは看板がついてるかどうか。今時看板なんか付けて走らないですよ。よっぽどじゃな

い限り。ない方がいいんですよ。ところがついてないものは認めないとかね。実際にやつてる都合があつてやるんですけど、それに対して昔々の制度をそのまま持つてくるとかね。ひどかったですね。

後から被害に気付くことも

水が入っただけで何でもないとやつが、実際は全部使い物にならない。それも後になってわかるんですよ。日々使ってるものはすぐ気がつくんですが、一番参つたのはね、大きい電子はかりがあるんですよ。あの頃まだ使われないじゃないですか。スイッチ入れたらば一つも動かないんですね、水がついてるから。その頃気がついたんですよ。あれ駄目だつていうね。

だから一回こっきりしか申告ができないとか、全部一回の申告で済ませろつていうのは。初めての被害の時はそんなことはやつてみるまでわからないからね。結局ここまでは壊れてないだろうと思つた機械も全部駄目でしたね。それは、援助金の対象に一切ならなかった。水がここまですでに動かしてないからここまですでいいだろうつていうような修理しかしてないじゃないですか。全然関係ない方で水が回ってきたとかね。それは相対の損害が出ましたね。

さらに後々あつたのは、使われないで予備に置い

ておく機械があるじゃないですか。それも棚の上の方になんか置かないじゃないですか。倉庫に積んでおくじゃないですか。それが全て水に浸かって、ちやうんですよね。例えばそれで作業が始まって、どうしてもエアードーツと吹いてね、綺麗にほこりを飛ばして直さなきゃいけないっていうのがあるじゃないですか。目の前のコンプレッサーは水に浸かっているから駄目なんです。もちろんそれは駄目ってわかっているんですよ。何台も予備があんだっけ、持ってこいやと言ったら、全部動かない。一切なくなっちゃう、あの瞬間にね。一切なくなっちゃったっていうのはね、想像を絶する不安です。

結局駄目なもの投げるようですよ。投げる道具がないじゃないですか。道具もあつたわけなんです、みんなが動かない。走らない。そういうようなことが一番でしたね。

今後のために必要なこと

やっぱりデータでしょうね、警報の。最近ほら線状降水帯とか。それから何でしたっけ、ハザードマップとか。あれじゃ足りないね。大子の場合には、大子で五〇〇ミリ降っても大したことないんですよ。それよりも上流で降られた四〇〇ミリの方がきくね。上流でたしか四五〇ぐらい降ったんですよね。それが夜中になって出てきたんです

よ。夜中になってですから間に合わないよね。

丁度その時ね、私はこんにやくの原料屋なので、北茨城、山の中に生産農家があるんですよ。秋ですから、どうした大丈夫かと、こんにやくの玉は出るかと言ったら、全部駄目だよって。なんでもって聞いたら洪水で流されちゃったと。あんたんとこ山の奥じゃない、どこに川があつたんだっけって言ったら、小川がワーツと水が出ちゃって、そこに五〇〇ミリ近い雨が降ったんで、一瞬でボンと全部畑が砂で覆われちゃったのね。それはもう掘れないですよ。それつきり生産地がなくなっちゃう。

離れた場所の降水データなんか、少なくとも役場の防災課は知ってて。例えば大子は 二〇〇だけど、隣町とのもつと先が、どうも四〇〇降っているから危ないぞとかね。そういう予報を立てるべきだと思いましたが。そうすれば逃げられるのか、いろんな防ぐ手立てもあるじゃないですか。例えば仕掛品とか材料とか車だったらば、高いところに持っていくとか。誰だつて言われればやるよね。

情報をね、川の上の方はどうなんだとか。しかも今までないような降り方をするわけだから、そういうものまで頭に入れて、目の前の範疇じゃなくて離れた地域がここに影響するんであれば、そういうのまで入れた防災。必要だと思いますよね。

今後の大子町

もう少し人が増えるような策をしてもらいたいですよね。今、コロナで日本でもリモートワークが一般的になりましたよね。だからこれだけ自然があつて、残念ながら空き家の多くなってきた地区ですから、そういうところをもっと活用して。そうは言っても道路が良くならないと来てくれませんよね。鉄道も含めて、交通手段だけはしっかり作ってもらって、それで田舎はどうっていうようなことやって人を集めるのが一番なのかなと。

もうちょっと人が欲しいですね。三万人ぐらい欲しいですね。今の倍。